

○ 全体概要

実証対象技術／ 実証申請者	アルペジオ・ソーラーV NB グラス遮熱／ 株式会社ニチベイ
実証機関	一般財団法人建材試験センター
実証試験期間	平成24年8月31日～平成25年3月11日

1. 実証対象技術の概要

ブラインド（縦型）の日射遮蔽性能を高くした技術

※技術の特徴などの情報は、4.参考情報（概要版7ページ）を参照。

2. 実証試験の概要

2.1 空調負荷低減等性能実証項目

窓用日射遮蔽ブラインド（縦型）の熱・光学性能を測定し、その結果から、下記条件における対象建築物の全ての窓に窓用日射遮蔽ブラインド（縦型）を室内側に取り付けた場合の効果（冷房負荷低減効果等）を数値計算により算出した。数値計算は、製品の中で最も明度の低いものの測定結果を用いて行った。数値計算の基準は、一般のブラインド（以下、「一般品」という）とした。一般品の熱・光学性能値は、詳細版本編 4.2.2(3)に示す（詳細版本編 18 ページ参照）。

2.1.1. 数値計算における設定条件

(1) 対象建築物

1) 住宅（戸建木造）モデルの1階LD部（リビングダイニングスペース）部

〔対象床面積：20.49 m²、窓面積：6.62m²、階高：2.7m、構造：木造〕

2) オフィスの事務室南側部

〔対象床面積：115.29m²、窓面積：37.44m²、階高：3.6m、構造：RC造〕

注) 周囲の建築物等の影響による日射の遮蔽は考慮しない。

対象建築物の詳細は、詳細版本編 4.2.2(1)①対象建築物（詳細版本編 13 ページ）参照。

(2) 使用気象データ

拡張アメダス気象データ標準年（1981年～1995年）（東京都及び大阪府）

(3) 空調機器設定

建築物	冷房設定温度（℃）	稼働時間	冷房 COP
住宅	26.6	6～9時・12～14時・16～22時	4.67
オフィス	28.0	平日7～21時	3.55

(4) 電力量料金単価の設定

地域	建築物	標準契約種別	電力量料金単価（円/kWh）	
			夏季	その他季
東京	住宅	従量電灯 B	22.86	
	オフィス	業務用電力	16.36 [13.75]	15.26 [12.65]
大阪	住宅	従量電灯 A	24.21	
	オフィス	高圧電力 AS	12.08	11.06

3. 実証試験結果

3.1 空調負荷低減等性能

(1) 熱・光学性能試験結果

① ブラインドの室外側の面を対象とした試験の結果（平均値）

【実証項目】

	No.1	No.2	No.3	平均
日射透過率 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0
日射反射率 (%)	84.1	83.8	84.1	84.0
修正放射率（長波放射率）（—）	0.92	0.92	0.92	0.92
明度（—）	9.7	9.7	9.7	9.7

② ブラインドの室内側の面を対象とした試験の結果（平均値）

【参考項目】

	No.1	No.2	No.3	平均
日射反射率 (%)	84.1	83.9	84.0	84.0
修正放射率（長波放射率）（—）	0.92	0.92	0.92	0.92
明度（—）	9.7	9.7	9.7	9.7

③ 開口部に取り付けた状態で行った試験の結果*1

【実証項目】

項目	ガラスの厚さ	結果
遮へい係数（—）	3mm	0.26
	8mm	0.23

*1：それぞれの厚さのフロート板ガラスに対して、製品仕様の距離を置いて取り付けた状態で試験を行った。

(2) 分光透過率及び分光反射率（波長範囲：300nm～2500nm）の特性

① ブラインドの室外側の面を対象

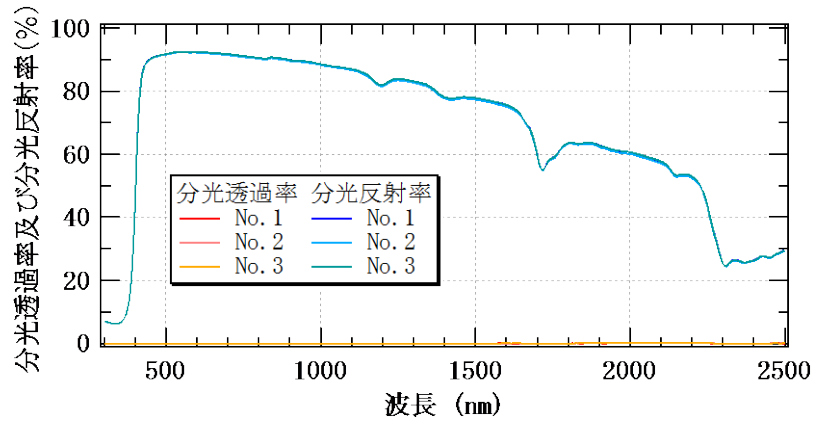


図-1 分光透過率及び分光反射率測定結果

② ブラインドの室外側の面を対象

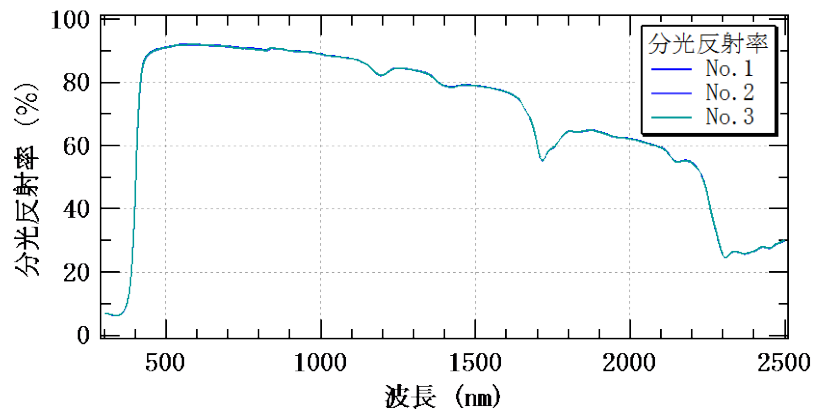


図-2 分光透過率及び分光反射率測定結果

3.1.2. 数値計算により算出する実証項目

(1) 実証項目の計算結果

【算出対象区域：LD 部（住宅）、事務室南側部（オフィス）】

比較対象：ブラインド（一般品）

		東京都		大阪府	
		住宅(戸建木造)	オフィス	住宅(戸建木造)	オフィス
冷房負荷 低減効果*1 (夏季 1ヶ月)	熱量	86 kWh/月 (412kWh/月 → 326kWh/月)	365 kWh/月 (1,605kWh/月 → 1,240kWh/月)	87 kWh/月 (469kWh/月 → 382kWh/月)	366 kWh/月 (1,741kWh/月 → 1,375kWh/月)
		20.9 %低減	22.7 %低減	18.6 %低減	21.0 %低減
	電気 料金	422 円低減	1,683 円低減 [1,414 円低減]	449 円低減	1,246 円低減
冷房負荷 低減効果*1 (夏季 6~9月)	熱量	278 kWh/4ヶ月 (1,086kWh/4ヶ月 → 808kWh/4ヶ月)	1,101 kWh/4ヶ月 (4,110kWh/4ヶ月 → 3,009kWh/4ヶ月)	299 kWh/4ヶ月 (1,261kWh/4ヶ月 → 962kWh/4ヶ月)	1,231 kWh/4ヶ月 (4,657kWh/4ヶ月 → 3,426kWh/4ヶ月)
		25.6 %低減	26.8 %低減	23.7 %低減	26.4 %低減
	電気 料金	1,359 円低減	5,007 円低減 [4,197 円低減]	1,550 円低減	4,122 円低減
室温上昇 抑制効果*2 (夏季 15時)	自然 室温*3	3.1℃ (37.6℃→ 34.5℃)	3.8℃ (46.9℃→ 43.1℃)	2.5℃ (36.6℃→ 34.1℃)	4.5℃ (48.2℃→ 43.7℃)
	体感 温度*4	3.1℃ (37.5℃→ 34.4℃)	3.8℃ (46.8℃→ 43.0℃)	2.4℃ (36.4℃→ 34.0℃)	4.4℃ (48.1℃→ 43.7℃)

*1：夏季1ヶ月（8月）及び夏季（6～9月）において室内温度が冷房設定温度を上回ったときに冷房稼働した場合の冷房負荷低減効果

*2：8月1日における、対象部での室温の抑制効果

*3：冷房を行わないときの室温

*4：平均放射温度（MRT）を考慮した温度（空気温度とMRTの重み付き平均）

注1）数値計算は、モデル的な住宅を想定し、各種前提条件のもと行ったものであり、実際の導入環境とは異なる。また、数値計算の基準は、一般のブラインド（以下、「一般品」という）とした。一般品の熱・光学性能値は、詳細版本編 4.2.2(3)に示す（詳細版本編 18 ページ参照）。

注2）電気料金のうち、括弧内に示す値は、平成 23 年度に当分野で設定した電力量料金単価に基づき算出したものである。

(2) 参考項目の計算結果

① 年間を通じ冷房の影響を考慮した計算結果

【算出対象区域：LD 部（住宅）、事務室南側部（オフィス）】

比較対象：ブラインド（一般品）

		東京都		大阪府	
		住宅(戸建木造)	オフィス	住宅(戸建木造)	オフィス
冷房負荷 低減効果*1 (年間空調)	熱量	392 kWh/年 (1,253kWh/年 → 861kWh/年)	1,560 kWh/年 (4,760kWh/年 → 3,200kWh/年)	410 kWh/年 (1,422kWh/年 → 1,012kWh/年)	1,782 kWh/年 (5,499kWh/年 → 3,717kWh/年)
		31.3 %低減	32.8 %低減	28.8 %低減	32.4 %低減
	電気 料金	1,920 円低減	6,982 円低減 [5,834 円低減]	2,127 円低減	5,838 円低減

② 建築物全体または事務室全体において年間を通じ冷房の影響を考慮した計算結果

【算出対象区域：建築物全体（住宅）、基準階事務室全体（オフィス）】

比較対象：ブラインド（一般品）

		東京都		大阪府	
		住宅(戸建木造)	オフィス	住宅(戸建木造)	オフィス
冷房負荷 低減効果*1 (年間空調)	熱量	495 kWh/年 (1,697kWh/年 → 1,202kWh/年)	6,558 kWh/年 (23,435kWh/年 → 16,877kWh/年)	522 kWh/年 (1,955kWh/年 → 1,433kWh/年)	7,500 kWh/年 (27,015kWh/年 → 19,515kWh/年)
		29.2 %低減	28.0 %低減	26.7 %低減	27.8 %低減
	電気 料金	2,423 円低減	29,300 円低減 [24,481 円低減]	2,703 円低減	24,578 円低減

*1：年間を通じ室内温度が冷房設定温度を上回ったときに冷房が稼働した場合の冷房負荷低減効果

注 1) 数値計算は、モデル的な住宅及びオフィスを想定し、各種前提条件のもと行っており、実際の導入環境とは異なる。また、数値計算の基準は、一般のブラインド（以下、「一般品」という）とした。一般品の熱・光学性能値は、詳細版本編 4.2.2(3)に示す（詳細版本編 18 ページ参照）。

注 2) 電気料金のうち、括弧内に示す値は、平成 23 年度に当分野で設定した電力量料金単価に基づき算出したものである。

(3) (1)実証項目の計算結果及び(2)参考項目の計算結果に共通する注意点

- ① 数値計算は、モデル的な住宅・オフィスを想定し、各種前提条件のもと行ったものであり、実際の導入環境とは異なる。
- ② 熱負荷の低減効果を熱量単位（kWh）だけでなく、電気料金の低減効果（円）としても示すため、定格出力運転時における消費電力 1kW当たりの冷房能力（kW）を表したCOP及び電力量料金単価を設定している。
- ③ 数値計算において設定した冷房の運転期間は、下記の通りとした。
 - 夏季 15 時 : 8 月 1 日の 15 時
 - 夏季 1 ヶ月 : 8 月 1～31 日
 - 夏季 6～9 月 : 6 月 1 日～9 月 30 日
 - 年間空調 : 冷房期間 1 年*1

*1： 設定温度よりも室温が高い場合に冷房運転を行う。
- ④ 日射が遮蔽され、室内が暗くなることに伴い生じる、照明の量及び時間に起因する熱負荷の増加は考慮していない。
- ⑤ 冷房・暖房負荷低減効果の熱量の欄には、実証対象技術の取替え前後の熱負荷の差および取替え前後の熱負荷の総和をそれぞれ示している（使用前→使用后）。
- ⑥ 電気料金について、本計算では窓用日射遮蔽ブラインド（縦型）と一般品との室内熱負荷の差を検討の対象としていることから、種々の仮定が必要となる総額を見積もることをせず、熱負荷の変化に伴う空調電気料金の差額のみを示している（電気料金の算出に関する考え方は詳細版本編 24 ページ【電気料金算出に関する考え方】示す）。

4. 参考情報

(1)実証対象技術の概要（参考情報）及び(2)その他メーカーからの情報は、全て実証申請者が自らの責任において申請したものであり、環境省及び実証機関は、内容に関して一切の責任を負いません。

(1) 実証対象技術の概要（参考情報）

項目		実証申請者 記入欄		
実証申請者		株式会社ニチベイ (英文表記: Nichibei Co.,Ltd.)		
技術開発企業名		同上		
実証対象製品・名称		アルペジオ・ソーラーV NB グラス遮熱 (英文表記: Arpeggio・SolarV NB-GlassHeatShield)		
実証対象製品・型番				
連絡先	TEL	046-286-4043		
	FAX	046-285-2630		
	Web アドレス	http://www.nichi-bei.co.jp/		
	E-mail	s-katsumata@nichi-bei.co.jp		
技術の特徴		日射反射率の高い PVC(ポリ塩化ビニル)フィルムで日射透過率が少ない遮光用グラスファイバー生布をラミネートすることにより、日射遮蔽性能を向上させた。		
設置条件	対応する建築物・部位など	住宅・建築物の室内側窓開口部		
	施工上の留意点	取付用ブラケットを固定し、ブラケットに製品を取付ける。		
	その他設置場所等の制約条件			
メンテナンスの必要性 耐候性・製品寿命など		ブラインド各部品の耐候性は一般的な取付環境では 10 年以上		
コスト概算		設計施工価格(材工共)	15,500 円	1m ² あたり

(2) その他メーカーからの情報（参考情報）

タテ型ブラインド専用生地。ルーバー（羽）幅は 75 mm、100 mm
 パーチカルブラインド ソーラーV、パーチカルブラインド アルペジオに使用。
 色柄 No. : A6970 (5609) ※
 ※括弧内は原反 No.を示す。